

歌うことを優先させた「弾き歌い」のピアノ指導について

保育者養成校のオンライン授業から

About teaching "singing while playing the piano" with priority on singing
Online Classes at Child Care Provider Training School

林 麻由美 (東京福祉大学短期大学部)
Mayumi HAYASHI (Tokyo University of Social Welfare Junior College)

(キーワード)

弾き歌い、子どもの歌、ピアノ、保育者養成校、オンライン授業

はじめに

コロナ禍における 2020 年度の授業はオンラインとなり、全くの手探り状態で開始された。特に実技科目においては大変難しい状況が続いた。そのような状況でも発表者の担当する「保育表現技術演習」の授業では、例年実施していた子どもの歌の「弾き歌い」の演習をなんとかオンラインでも成り立たせることが可能なのではないかと考えた。

歌のメロディを弾きながら歌う「弾き歌い」は、保育者ならではの技術であると言える。ピアノの技術もままならない学生は、苦難を強いられることになる。また今まで独奏が中心であったピアノ経験者にとっても、「弾き歌い」は保育者養成校での新しい学びであると発表者は考えていることから、2018 年より「保育表現技術演習」の集団授業の「弾き歌い」の指導において、左手コード+歌、右手メロディ+歌による簡単にできる片手弾き歌い練習方法を提示し、子どもの歌の中でも最もポピュラーな「アイアイ」、「おもちゃのチャチャチャ」の2曲を取りあげ実践していた。

対面授業では、片手弾きによる全員でのアンサンブルも行い、現場で他者がいるイメージを体感することもできた。また、音の間違いの指摘や指づかひのヴァリエーションなども一人一人の対応ができた。

(1)メロディの弾き歌い

実は、楽譜に示された右手メロディのリズムと歌詞の言葉のリズムが異なることがあるということに気がつかない学生が多くいることが現状である。その理由として、学生はまず両手でピアノが弾けるようになることを優先して学習しているからであると考えられる。

楽譜に示されたリズムで弾き、そのまま歌うと、日本語の発音が不自然になってしまうことが多くある。保育者は子どもたちにとってモデル的な存在であるからこそ、正しい言葉のリズムで歌うことが重要である。この点を保育者養成校の学生たちにしっかり認識して欲しいと考えている。

言葉のリズムに合わせた右手メロディの弾き方については、自然に歌いながら左手和音がスムーズに弾けているか、言葉のリズムに合わせた右手のメロディの弾き方ができているか、楽譜のどの部分なのか、どの言葉なのかを具体的に示し、これまでの対面授業では、一人ずつ確認テストを行い評価の一部としていた。

(2)「弾き歌い」のオンライン授業

zoom でのオンライン授業では、対面授業時と同様の内容で実施することは不可能である。また、中には楽器を所有していない学生もいたため、そのような学生にも対応できるようなオ

ンラインでの「弾き歌い」の授業を考え、T 大学短期大学部 3 年生 14 名に対し実施した。

「弾き歌い」の課題曲として「どんぐりころころ」、「とんぼのめがね」、「雪」（いずれもハ長調で演奏する）を取りあげた。その理由としてこれらの曲の特徴は、以下 2 点挙げられる。

*左手がドミソ、シレソ、ドファラの主要 3 和音だけで構成される。

*右手は手のポジションが、ドレミファソと、ミソラドの 2 パターンである。

わかりやすく色分けして、左手の和音は、赤、青、緑で囲み、右手は、ドレミファソを水色、ミソラドはオレンジ色で旋律を線でなぞった。

手の型のパターンが左手は 3 種類、右手は 2 種類だけなので、オンライン上での説明だけでも学生が理解し、習得しやすいと考えた。またピアノを所有していない紙鍵盤で参加している学生の手の動きを教員が画面上で見て確認もできる。

授業での演習では、歌うことが優先とするので、歌にピアノを付けていくという手順にした。具体的には、歌いながら同じ種類の手の型（ポジション）のところだけを抜き出して弾く方法を示し全員で繰り返し演奏した。

また、対面授業のようなアンサンブルはできないが、学生が音声を off にした状態で教員が弾くピアノとの重奏により、学生側には教員とアンサンブルをしているようなイメージができる考えた。さらに教員は、zoom のブレイクアウトルームの機能を使用して、学生一人一人に片手による「弾き歌い」確認テストを実施することができた。

(3) 片手弾き歌いの確認テスト

確認テストの学生への告知については以下のように提示した。

① 課題曲は「どんぐりころころ」「とんぼのめがね」「雪」の 3 曲である。

② テンポは ♩=80~90（どんぐりころころ

は ♩=80~90）で止まらずに演奏すること。

③ 歌詞は 1 番～3 番（2 番）まで歌うこと。

④ 左手（和音）+ 歌、右手+ 歌 が達成できているか確認する。1 箇所でもつまずいたらたら再テストを行う。

⑤ 右手+ 歌の際、メロディは歌詞のことばのリズムに合わせて弾くこと。

②のテンポについては、学生全員にメトロノームのアプリをスマートフォンに入れるように指示し、指定された速さのメトロノームのビートを聴きながら練習するように指導した。加えて、止まらないで最後まで弾けるようになった時、初めて習得できたと実感できるのだと説明した。確認テストで再テストになった学生は、合格するまでテストを行い、その結果、全員合格となった。

(4) 授業後の学生の感想からの考察

授業後の学生からの自由記述による感想を収集した結果、この「弾き歌い」の授業で、「以前より弾けるようになった、早く仕上がるようになった、自信につながった」と多くの学生が回答した。授業を始める際には、学生たちに今までのピアノ演奏の経験について尋ねることはしなかったが、その中で、初級者であると教員が判断した学生は、「ピアノへ向き合う気持ちが変わった。達成感、楽しさなど味わうことができた」と回答した。また、ピアノ上級者で行事で必ず演奏者代表になる学生も、「今までは歌うことに苦手意識があり、ピアノの音でごまかしていたが、簡易化された左手と一緒に歌うことで、自分の声に集中することができ勉強になった」と回答した。片手弾き歌いに関しては、「歌に集中できた。自然に弾きながら歌えるようになった」などと、歌うことに関しての数名の記述があった。以上のことから、小さな達成感の積み重ねが学生達の自信に繋がるのではないかと考えた。また、オンラインでの「弾き歌い」の授業は有効であったと考える。